平成２９年度　六戸町総合教育会議　議事録

期　　日　　平成２９年８月２５日（金）

場　　所　　六戸町立図書館会議室

案　　件
　議　　事　　教育施策の課題と対策について
　　（１）不登校・いじめ対策
　　（２）大曲小学校の学習環境整備
　　（３）学力向上
　　（４）“教育のブランド化”教育力２０％アップ

平成２９年８月２５日（金）
・開会午後３時００分
・閉会午後４時１５分
・出席者の氏名
　吉田豊（町長）
　瀧口孝之（教育長）、長根富栄（教育委員）、新井田秀雄（教育委員）、吉田尚子（教育委員）、松橋一男（教育委員）、
・説明のために出席した者の氏名
　吉田英輔（教育課長）、坂本和康（指導室長）、佐藤良一（教育課長補佐）、澤口俊博（教育課長補佐）、鈴木博文（教育課長補佐）

町長あいさつ

（吉田町長）

皆様、大変お疲れ様でございます。さて、平成２７年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正」がなされ、六戸町総合教育会議が設置をされまして、本年度で３年目を迎えたところでございます。これは「新教育委員会制度」の一部でありまして、事前的な動きではなかったのかと思います。

皆様に申し上げるまでもなく、これまでの教育委員会は、「別物」みたいな環境の中で市町村の中に存在しているという向きがありましたが、それを行政と一体化する分、「意思疎通を図りながら」といったところが出てきたのかなと思っております。

時代が変わり相互で理解をして、これからの教育というものを与えるべき人に仕向けて行くという総合的な考え方に時代が変わったのだろうと思っております。ある部分においては、学校教育が主であったり、しかし学校教育の一端においては社会全体の係わりといった部分を考えてみたり、それを色分けするのではなく総合的にしっかりとやっていくということから、このような制度に変わってきのだろうなと思っております。

教育委員の皆様には、長年六戸町の教育委員を務めて頂きお世話になっておりますが、教育委員会制度が変わったことにより、いきなり何かを変えるということではございませんが、時代の流れに沿いながら六戸町の教育委員会、そして教育行政という部分が一体となって、児童生徒のために尽くせる、または、社会教育的な意味での向上を図れれば幸いだと思っております。

六戸町も新教育委員会制度における教育長と教育委員長を一本化した教育長を選任いたしました。新たなる教育委員会改革のポイントとして、これからも教育委員の皆様と共に、六戸町の教育全般の充実を図っていたいと考えております。

議　　事　　教育施策の課題と対策について

（１）不登校・いじめ対策

（瀧口教育長）

六戸町のこれまでの不登校対策の取り組みは、平成２２年度から平成２３年度にかけて不登校児童生徒が増加傾向にあったことから、平成２４年度重点的に取り組む内容として①六戸町教育目標の重点取組事項とする、②個別検討会議の開催（福祉課・学校・教育相談員・児童相談所）、③各校のきめ細かな対応策（家庭訪問・連絡方法・別室登校の推奨）、④教育相談員との連携、⑤公的機関での学習機会の確保対応（図書館での学習）、⑥家庭訪問等を含めた、登校刺激の実施、⑦県のスクールカウンセラーの活用、⑧不登校対策の行動指針の作成、⑨教育講演会での研修の９点に絞って取り組んできました。

まずは六戸町教育目標の重点取組事項として継続的に課題に取り組むこととし、②から④にありますが、学校を中心として各関係機関が協力し合って、当然、町教育委員会も係わって進めておりますが、懇切丁寧に対応して頂いているところです。また、不登校対策の行動指針については４月の校長会で示すとともに全教員に配付して周知徹底を図っております。

現在までも不登校児童生徒数は実質的には増減を繰り返しておりますが、数字的に見ても決して良い数字ではないと思っております。しかし、数字が減ればいいのかというと必

ずしもそうではないのではないか。良い学校とはどういう学校なのかを考えた時に、私は問題の無い学校が良い学校とは思っていません。学校は問題があることが当たり前であって、その問題を学校全体で情報を共有し、問題解決に向けしっかりと取り組んでいく環境が整っていたり、意識が高かったり、問題に対して一致結束して取り組んでいける学校こそが、良い学校と考えています。六戸町の小中学校に関しては、不登校の人数が多いから少ないからということではなくて、しっかりと取り組んでいる。きめ細かな対応がきちんとできている。そこは評価して良いところだと思っております。

いじめについても、各学校で学期に１回のいじめアンケートを実施しながら、一人一人に懇切丁寧に対応して頂いておりますので、結果として大きな問題にはなっておりません。ただ、今後は特にスマホの所持率が高くなっている現状から、ＳＮＳに対するいじめ対応が求められていくと考えます。ＳＮＳのいじめは周囲から見取りづらい面もあり、知らない中で進んでいくような性格のものですので、アンテナを高くして対応していかなければいけない。また、被害者や加害者だけではなくて、周りの児童生徒への指導がポイントになっていくのだろうと思っております。

（２）大曲小学校の学習環境整備

（瀧口教育長）

大曲小学校の児童数は、平成３５年まで増え続けると予想されます。それに伴い、クラス数も増加し、平成３３年度には１２クラスの普通教室が必要となります。現状の普通教室６クラスでは、当然足りないということになります。

児童数が増えることへの対応として２点について考えています。１点目は普通教室不足への対応となります。平成３０年度までの９クラスへの対応は、特別教室を普通教室に代替をして対応していきます。平成３１年度の１０クラスへの対応は、平成３０年度に普通教室６クラスを増築し対応いたします。普通教室増築により平成３５年度の最大１２クラスにも対応できることとなります。

２点目は学校用地不足の対策ということで、大曲小学校の東側に学校用地を取得する計画を進めています。駐車スペースやスクールバスレーンスペースなどの課題解決に向けて、計画を進めているという状況です。

（３）学力向上

（瀧口教育長）

六戸町の平成２８年度に中学校を卒業した生徒の状況について、青森県の学力・学習状況調査の結果を見てみますと、小学校５年生時には県平均よりもかなり高い数値を示しておりますが、中学校２年生時には県平均に近い状況となり、高校入試時には県平均を下回っている状況にあります。県の学習状況調査以外にも、全国の学力テストというものも実施しております。これは小学校６年生、中学校３年生を対象に調査しているものですけども、中学校３年生の調査、これは中学校３年生の春に調査をしています。その結果をみますと、県平均を上回っています。残念ながら高校入試時に下がってしまう状況にあり、ほかの年代も概ねそういった傾向がみられています。子どもたち一人一人の進路の実現であったり、夢の実現のためには、何かしらの対策が必要ではないかと考えています。特に小

学校から中学校への接続時期の対応や、中学校３年時の高校入試に向けた対策が必要であると見て取れるのではないかと思います。ただ、成績が上がればいいというものでもなく、町長が日頃から言っている、「どんな場面でも物怖じしないで、何事にも積極的に取り組める人材育成」そういったことを教育施策に反映させていきながら、また、先進地視察も今後計画しながら教職員の意識、生徒の意識を高めながら対応していく問題ではないかと思っています。

その他には、平成３２年に学習指導要領が改訂されることに伴う、小学校における外国語活動の充実を図る必要があると考えております。平成３０年から平成３１年の２年間の移行期間を経て、平成３２年に完全実施となります。新学習指導要領では小学校３・４年生は外国語活動を行うことになります。実は今、小学校５・６年生が外国語活動に取り組んでおります。小学校５・６年生は教科として外国語科という形で進めていくことになります。移行期間の指導について、実際に授業時数が増えることになります。内容としては、小学校３・４年生では聞く・話すから始まって、小学校５・６年生になると、加えて読む・書くという内容に変わっていきます。実際に小学校教職員は、今まで無かったことに新たに取り組まなければならないという戸惑いがあると思います。どうやって教えていけばいいのかという「指導力への不安」や教材研究やそれに費やされる時間などによる「負担増や多忙化」に陥るなどの不安を抱えることが予想されます。

では具体的にどのように対応していかなければいけないかというところですが、教職員の指導力はもちろんですが、「聞く・話す」といったところについてはやはり、ネイティブな英語を聞かせることが大事だろうなと考えています。現在六戸町では、ＡＬＴ（外国語指導助手）１人体制で行っていますが、増員ができないものか、また、教育アドバイザーを配置し、外国語活動や外国語科の指導助言を行うような体制を整えることはできないかなど、いろんなことを視野に入れて検討する必要があります。

（４）“教育のブランド化”教育力２０％アップ

（瀧口教育長）

現在、六戸町教育委員会が進めている取り組みとして“教育のブランド化”教育力２０％アップがあります。取り組みの状況についてお示ししたいと思います。

（佐藤課長補佐）

学校教育では「楽しい学校」をテーマに掲げています。誇れる№１事業では、正門前通りをハッピースマイル通りと名付け、生徒、保護者、地域の方を対象にあいさつ運動に取り組んだり、青年赤十字活動として学校の球根植えや雪片付けなどを行い、奉仕の心を養うなど各校の取り組みが行われ、地域とのつながりや思いやりの気持ちが育まれています。

（坂本指導室長）

不登校児童・生徒については、公的機関で学習していた生徒が、学校に登校できるようになったこと、また、生徒指導に関して生徒指導主任・主事研修会を開催するなど、学校と教育委員会が生徒指導に関して共通認識をして、行動連携がとれるようになっている。

夏季休業中にＡＬＴとＣＩＲが各学校に出向き、児童生徒対象のイングリッシュ・サロ

ンを開催し、参加した児童生徒に英語を学ぶ楽しさを実感させることが出来ています。

（澤口課長補佐）
　社会教育では「芸術活動の盛んな町」をテーマに掲げています。文化ホールにおいて演劇やクラシックのカジュアルコンサート、マジックショーを開催し、様々な内容を提供することができ、町民の情操面を高めることが出来ています。青年講座は、年間１０回の講座を実施しております。講座開催数は前年度と同数ですが、受講者数は前年度の１００人から１２２人へ増加しております。夢生学習塾は、シルバー世代を中心とした受講者の学習意欲は非常に高く、積極的に講座の企画や運営に携わろうとする受講者も年々増えております。与えられる学習から自ら望む学習へと受講者の参加姿勢が変わりつつあります。

（鈴木課長補佐）
　社会体育では「町民運動会のある町」をテーマに掲げています。町制施行６０周年記念として実施した「お楽しみ抽選会」では抽選券配布数が、４２９枚であったことから開会式への参加者数増加の効果が見られました。折茂チームの一部参加について、平成２８年度は５種目の参加でしたが、平成２９年度は７種目の参加と参加種目を増やすことができました。町民運動会の開催により、「世代間交流による子どもたちの豊かな学びと地域への愛着の浸透」「大人自身の学び（子どもたちの一生懸命さが大人に伝わり大人も盛り上がる。）」「生涯スポーツの推進」が図られ、教育効果は大きいものと考えています。

（吉田町長）
　教育施策の課題と対策について事務局より説明いただきましたが、単に教育の点数を上げることばかりではなく、行っている活動や数値に落とせないにしても、前よりは上昇しながら満足しながら行っていると感じ取れるような流れになって欲しいという意味で「教育力２０％アップ」とよく言っています。私は、教育は一言でいうと許容量の拡大だと思っております。人それぞれのキャパシティ、つまり将来においての人格や精神的な意味も含めて、人としての大きさを与えられるような子育て環境の充実を図ることが大事だろうと思っております。これは学校ばかりではなく家庭の環境も関係してきますが、先ほど説明があったように、成長すると同時に成績が下がってしまうということは、能力の有り無しではなく、社会に対しての適応力というか今ひとつ押しが弱いという部分も影響しているのではないかと思っております。高校入試という一番大事な時期に向かって成績が下がってしまうということは、何のために努力しているのかわからない。学校は専門的な部分もありますが、人生のトレーニング期間だと思っている。トレーニングをし、スタートは一生懸命やり筋力を付けたと思ったが、しかしみんなもやってきた。試合では気力負けしたり、体力負けしているようでは、何のためのスタートダッシュなのか、悔しい気持ちになります。「教育力２０％アップ」は点数ではありませんが、いろいろな角度から高校入試時の下がり幅を何とか抑えることができないのか。教育の指導もいろいろあると思いますが、それよりも、生徒自身が中学生になりいろんな意識を持つ中において、自分自身を形成する意識形成の器の有り方ではないかと考えております。基本的には人間としてのキャパシティ、許容量の拡大を図れるような、そういう子どもたちを育てられる環境ができな

いものかと考えています。
　不登校やいじめに関しても同じことが言えると思います。これも人間としてのキャパシティに相当影響してくるのではないか。いじめは、この時代にあってのことだと思いますが、子どもたちはそれを吸収し浄化していく心や余裕がないといけないと思います。やはり強い心を持った子ども達にしておくということが、不登校やいじめに対しての基本的部分の支えや指導になるのではないかと思います。
　外国語活動や外国語科への対応についても同じことが言えると考えています。記憶能力などの頭が良い悪いに関係なく、子どもたちが外国語に関心を持って余裕をもってそこに入り込まなければなりません。読み書きだけならいいと思いますが、基本的にこれからは知識として覚える前に日常で使えるような要素をもって、これからの将来の社会を考え外国語というものを日本人が取り組んでいきましょうということだと思いますので、話す、馴染むということからすれば、そこには児童生徒が自ら触れ合おうとする気持ちがなければ、吸収しにくいのではないか考えています。これは私の実体験からですが、私は間違ってでも英語で会話しています。それにより覚えることもたくさんあります。子どもたちは吸収が早いですので、ぜひ強い気持ちでチャレンジしてもらいたいと思っています。またそういう環境を整えてあげたいと思っています。

（新井田教育委員）
　私の経験談ですが、子どもの高校進学の時に当時の先生から塾に行くことを進められました。三沢市の塾に通うことになりましたが、その結果、格段に成績が上がった経験があります。六戸と十和田や三沢を比べた時にそういう環境の違いを感じた経験があります。六戸町の生徒が高校入試時に下がってしまう状況にあるのは、回りが塾等に通うことにより成績が上がったことも要因ではないかと思います。成績が上がったということに関しては、六戸町の子どもはその能力を秘めていると思います。

（吉田町長）
　塾には「やる気スイッチ」を入れる方策があるということだろうと思います。

（瀧口教育長）
　中学校での進路指導が早い段階で決めつけていないかと心配しています。まだまだ頑張れるという環境が出来ているだろうか。１年で成績が下がることは、なかなか考えづらい部分でもあります。新井田委員の話でも塾に通うことにより、もうひと頑張りし成績が上がる生徒もいると思っています。

（長根教育委員）
　伸び代のある子ども達には、その能力を伸ばしてあげたいと思います。その環境づくりをいかに整えるかだと思います。